

さとうきび増産に向けた取組の実績及び評価

沖縄県

沖縄県さとうきび増産プロジェクト会議

増産プロジェクトにおける令和6年産生産計画の達成状況及び今後の取組状況													
生産計画の達成状況等	1 令和6年産の生産実績												
		収穫面積 (ha)				単収 (kg/10a)				生産量 (t)			
		夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計
	H29年産実績	4,022	1,217	8,570	13,809	7,084	4,873	4,953	5,567	284,866	59,328	424,482	768,675
	H30年産実績	3,123	1,527	8,495	13,145	7,271	4,924	5,183	5,649	227,059	75,187	440,338	742,584
	R元年産実績	3,500	1,196	8,205	12,901	6,499	4,824	4,761	5,239	227,463	57,690	390,673	675,827
	R2年産実績	3,415	1,414	8,042	12,871	7,932	5,226	5,833	6,323	270,831	73,915	469,108	813,853
	R3年産実績	3,643	1,353	8,796	13,792	7,476	5,242	5,368	5,913	272,325	70,901	472,200	815,426
	R4年度実績	3,039	1,164	9,477	13,680	7,181	4,585	4,916	5,391	218,212	53,364	465,863	737,439
	R5年増産実績	2,774	1,289	9,101	13,164	6,493	4,648	4,662	5,046	180,129	59,900	424,255	664,284
	R6年増産計画	3,048	1,199	9,243	13,489	8,066	5,427	6,222	6,568	245,826	65,050	575,044	885,920
	R6年増産実績	3,050	1,212	9,222	13,484	8,101	5,548	5,756	6,267	247,049	67,258	530,806	845,112
	(対計画比%)	(100.1)	(101.1)	(99.8)	(100.0)	(100.4)	(102.2)	(92.5)	(95.4)	(100.5)	(103.4)	(92.3)	(95.4)
	(対前年比%)	(109.9)	(94.1)	(101.3)	(102.4)	(124.8)	(119.4)	(123.5)	(124.2)	(137.2)	(112.3)	(125.1)	(127.2)
R7年産増産計画	5,200	1,600	7,500	14,300	7,519	5,250	5,693	6,308	391,000	84,000	427,000	902,000	

注) 数値について、四捨五入しているため、計と内訳が一致しない場合がある。以下、各表・数値とも同じ

2 その他指標の動向												
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
株出栽培の割合	51.8%	50.8%	53.8%	58.6%	62.1%	64.6%	63.6%	62.5%	63.8%	69.3%	69.1%	68.4%
栽培農家戸数(戸)	15,557	15,403	15,281	14,693	14,267	13,780	12,998	12,597	12,629	12,426	11,957	11,514
平均糖度(度)	14.4	14.3	13.6	14.6	13.9	14.0	14.7	14.6	15.2	13.8	14.6	13.8
産糖量(t)	81,679	83,163	82,924	114,353	87,149	83,999	80,647	92,748	95,072	83,683	78,749	97,054
製糖工場の操業日数(日)	1,387	1,426	1,801	1,857	1,791	1,955	1,650	1,863	2,203	1,771	1,719	2,171

<p>増産目標に対する位置づけ</p>	<p>令和6年産 生産計画及び実績については、以下のとおりであった</p> <table border="1" data-bbox="470 231 1153 359"> <thead> <tr> <th></th> <th>収穫面積</th> <th>単収</th> <th>生産量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(計画)</td> <td>13,489ha</td> <td>6,568kg/10a</td> <td>885,920t</td> </tr> <tr> <td>(実績)</td> <td>13,484ha</td> <td>6,267kg/10a</td> <td>845,112t</td> </tr> </tbody> </table> <p>今期は、本島及び周辺離島において生育旺盛期に一部地域で干ばつがみられたが、年間を通して平年より降水量が多かったことや、台風の影響が少なかったこと等により、生産量は昨年度に比べて27.2%の増産となり、令和6年度の目標に対して95.4%の達成率となった。次年度以降も増産計画の目標を達成するため、関係機関においては引き続き、かんがい施設等の生産基盤や防風・防潮林の整備をはじめ、機械化の促進、担い手への農地の利用集積、土づくり、病害虫防除等の諸施策を推進するとともに、優良品種の開発・普及により生産性及び品質向上を図る。</p>		収穫面積	単収	生産量	(計画)	13,489ha	6,568kg/10a	885,920t	(実績)	13,484ha	6,267kg/10a	845,112t
	収穫面積	単収	生産量										
(計画)	13,489ha	6,568kg/10a	885,920t										
(実績)	13,484ha	6,267kg/10a	845,112t										
<p>課題</p>	<p>平成27年度に改定した増産計画に基づき、引き続き、かんがい施設等の生産基盤や防風・防潮林の整備をはじめ、担い手への農地集積による収穫面積の維持・拡大、株出栽培技術の定着、機械化の促進、土づくり、病害虫防除対策等の諸施策を推進し、生産性及び品質向上に努める必要がある。</p> <p>また、防災農業の確立に向け、農業共済制度及び収入保険制度への加入促進、防風・防潮林整備の普及促進を一層強化し、農家の生産意欲向上を図る必要がある。さらに、甘味資源作物生産性向上緊急対策事業(さとうきび生産性向上緊急支援事業)を効果的に活用するため、県、糖業振興協会、市町村、JA、農業団体、製糖工場等が連携・協力し、生産回復・増産に向けて各種の増産対策を推進する。</p>												
<p>令和6年産における取組方針</p>	<p>主なさとうきび生産振興策として</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地下ダム及び溜め池等の農業用水源の確保や、かんがい施設、ほ場整備、農地防風林や保安林等の基盤整備 ② 農業法人等の育成を図るとともに、農地中間管理機構等と連携し、農業法人や認定農業者、新規就農者への農地の利用集積、規模拡大を推進 ③ ハーベスタや株出管理機等の導入により、地域の実情に即した機械化一貫作業体系の確立・普及を推進 ④ 品質や生産性の向上に向けた、早期高糖性及び耐風性に優れた新品種の育成・普及 ⑤ 栽培講習会や株出管理実演会等の開催等により基本栽培技術の啓発 ⑥ 有機質肥料の施用、深耕、緑肥栽培等による地力増進を推進する ⑦ 薬剤による適期防除、イネヨトウや土壌害虫等の防除を推進 ⑧ 「防風林の日」関連行事を通じての農地防風林の重要性の普及・啓発 ⑨ 説明会等を開催し引受推進に努め、農業共済及び収入保険制度の加入率向上を促進 ⑩ 甘味資源作物生産性向上緊急対策事業(さとうきび生産性向上緊急支援事業)の効果的な活用 												

〈別添:個別事項〉
 (1)経営基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																														
①効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保	<p>【実施した取組】</p> ① さとうきび経営安定対策について、JA、市町村、製糖工場、普及センター等の関係機関が一体となり各地区で防除を行う共同利用組織の育成支援等、要件充足に向けて取組を実施 ② 農地中間管理機構等と連携し、耕作放棄地の再生利用・農地利用集積等を推進 ③ イネヨトウ交信かく乱事業の実施にあわせた共同防除体制の構築 ④ 生産者ほ場植付調査(OCR調査)の実施	①認定農業者及び農業法人等の中核的な担い手への農地の利用集積、規模拡大を図る ②農業法人の安定的な経営に資するため、経営管理能力の向上にむけた経営診断、改善計画等の支援、生産性向上にむけた技術向上の推進を図る ③防除を行う共同利用組織の育成・強化を図る ④基幹作業受託組織の育成・強化を図る ⑤さとうきび経営安定対策の取組における関係機関の連携強化																														
【目標の達成状況】																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>440</td> <td>467</td> <td>415</td> <td>409</td> <td>414</td> <td>370</td> <td>370</td> <td>276</td> <td>249</td> </tr> <tr> <td>農業法人</td> <td>150</td> <td>170</td> <td>177</td> <td>189</td> <td>211</td> <td>221</td> <td>232</td> <td>239</td> <td>248</td> </tr> </tbody> </table>				H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	認定農業者	440	467	415	409	414	370	370	276	249	農業法人	150	170	177	189	211	221	232	239	248
	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																							
認定農業者	440	467	415	409	414	370	370	276	249																							
農業法人	150	170	177	189	211	221	232	239	248																							
<p>＜甘味資源作物生産者要件審査申請書審査結果＞(対象生産者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>A-1</th> <th>A-2</th> <th>A-3</th> <th>A-4</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年産</td> <td>92</td> <td>2</td> <td>5,739</td> <td>5,352</td> <td>11,185</td> </tr> <tr> <td>令和6年産</td> <td>76</td> <td>0</td> <td>5,369</td> <td>5,272</td> <td>10,717</td> </tr> </tbody> </table>				A-1	A-2	A-3	A-4	合計	令和5年産	92	2	5,739	5,352	11,185	令和6年産	76	0	5,369	5,272	10,717												
	A-1	A-2	A-3	A-4	合計																											
令和5年産	92	2	5,739	5,352	11,185																											
令和6年産	76	0	5,369	5,272	10,717																											
<p>【課題】</p> ① 地域に応じた担い手育成を加速する必要がある ② 農業法人については、各地域において中核的な担い手として位置づけて育成しているが、農地の集積化、農業機械の計画的な整備、運転資金の安定確保等の課題を抱えている ③ 農作業受委託体制の整備																																

②農業保険制度への加入促進	【実施した取組】 ① 集落や共済連絡員を集めて共済制度説明会開催及び引受推進を実施 ② 原料代金から共済掛金の引き落としによる完全徴収 ③ OCR調査、要件審査申請時に、関係団体と連携した加入推進 ④ 各地域さとうきび増産プロジェクト会議に参加し、構成団体と連携した加入推進 ⑤ 農業保険制度(農業共済、収入保険)の周知										① 農業保険制度の理解を得るため、引き続き集落、生産組合単位での制度説明会を開催し、引受推進に努める ② 共済掛金の完全徴収を目指し、原料代金から共済掛け金の引き落としを引き続き実施する ③ OCR調査やさとうきび経営安定対策及びさとうきび増産プロジェクト会議や生産組合の活動等に参加し、構成員であるJA、生産組合等と連携・協力して、加入推進に努める ④ 法人組織の加入促進に向けた取組にも対応できるよう、JA、生産組合との連携強化に努める ⑥ 県内農家のインタビュー動画の制作・活用など、リスク対策をより身近に感じてもらえるよう農業保険制度の周知に努める	
	【目標の達成状況:畑作物共済】											
		H28 (29年産)	H29 (30年産)	H30 R元年産	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)	R6 (R7年産)		
	加入戸数 (戸)	5,587	5,273	4,703	4,275	4,111	3,824	3,528	3,269	3,333		
	戸数引受率 (%)	41.3	40.6	38.2	35.9	34.0	32.2	30.9	29.8	29.2		
	引受面積 (ha)	7,036	6,339	5,604	5,016	5,047	4,617	4,301	4,291	4,436		
	面積引受率 (%)	51.2	48.4	43.6	39.1	36.7	33.9	32.8	31.9	33.8		
共済金額 (千円)	5,441,251	5,223,261	4,835,037	4,530,608	4,604,941	4,215,683	3,797,724	3,862,096				
注) R6(R7年産)の数値については暫定値(R7.3)												
【課題】 ① 農業保険制度(共済、収入保険)については、制度改正が随時行われていることから、農家に向けたなど継続的な制度周知を行う必要がある。 ② 近年、大雨等の予期しない災害が増えていることも含め、農家へ災害リスクに備えるための普及啓発を合せて行う必要がある。												

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																								
<p>①気象災害に強い生産基盤の整備</p>	<p>【実施した取組】</p> <p>① 本県は、台風及び干ばつの常襲地帯であり、安定的な生産を行うため、水資源の整備、かんがい施設等の整備に加え、農地防風林・保安林の整備を推進</p> <p>② 防風林の重要性について普及・啓発するため、パネル展、メディア広報、ラジオ、JA機関誌、ポスター原画コンクール、啓発ポスター作成・配布、沖縄県防災農業賞の表彰、講演会、植樹大会等(糸満市)の取り組みを実施</p> <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="445 533 1496 810"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28 実績</th> <th>H29 実績</th> <th>H30 実績</th> <th>R元 実績</th> <th>R2 実績</th> <th>R3 実績</th> <th>R4 実績</th> <th>R5 実績</th> <th>R6 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ほ場整備率</td> <td>61.7</td> <td>62.3</td> <td>62.9</td> <td>63.3</td> <td>63.8</td> <td>64.3</td> <td>68.4</td> <td>68.6</td> <td>69.0</td> </tr> <tr> <td>水源整備率</td> <td>62.1</td> <td>62.4</td> <td>62.5</td> <td>62.6</td> <td>62.6</td> <td>62.8</td> <td>65.5</td> <td>65.5</td> <td>65.5</td> </tr> <tr> <td>畑地かんがい整備率</td> <td>48.2</td> <td>48.8</td> <td>49.1</td> <td>49.7</td> <td>50.4</td> <td>51.0</td> <td>53.5</td> <td>53.7</td> <td>53.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <p>① さとうきびの安定的な生産を確保するためには、引き続き、ほ場整備、かんがい施設や農地防風林等の整備が不可欠</p> <p>② 農地防風林・保安林整備は、これまで事業等で実施してきたが、生産農家側の防風林の重要性に対する理解を得るため、引き続き、普及啓発の活動が必要</p> <p>③ 沖縄本島を中心に、大型のかん水機材が不足している。また、高齢の生産者においては、かん水作業が十分に実施出来ない</p>		H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 見込	ほ場整備率	61.7	62.3	62.9	63.3	63.8	64.3	68.4	68.6	69.0	水源整備率	62.1	62.4	62.5	62.6	62.6	62.8	65.5	65.5	65.5	畑地かんがい整備率	48.2	48.8	49.1	49.7	50.4	51.0	53.5	53.7	53.9	<p>①生産基盤の整備については、各市町村計画に基づき、当該市町村等と協議のうえ着実に整備を実施する</p> <p>②さとうきび増産基金等活用し、各地域の実情に合わせたかん水資材等の導入を促す</p>
	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 見込																																	
ほ場整備率	61.7	62.3	62.9	63.3	63.8	64.3	68.4	68.6	69.0																																	
水源整備率	62.1	62.4	62.5	62.6	62.6	62.8	65.5	65.5	65.5																																	
畑地かんがい整備率	48.2	48.8	49.1	49.7	50.4	51.0	53.5	53.7	53.9																																	

②機械化一貫体系の確立	【実施した取組】 ① 令和6年度は、さとうきび安定生産確立対策事業により、ハーベスタ等を17地区に導入 ・糸満市、南城市における小型ハーベスタの整備：2地区 ・宮古島市、竹富町における中型ハーベスタの整備：2地区 ・南大東村、粟国村、宮古島市におけるトラクタ等の栽培管理機の整備：13地区 ② ハーベスタ等のオペレータ研修の開催による技能向上 (11月：石垣市、12月：南風原町)										①さとうきび安定生産確立対策事業により、計画的なハーベスタ等高性能農業機械の導入に努める ②さとうきび機械化一貫体系モデル事業により、収穫機械の機能向上を支援し、機械の長寿命化や経営体の負担軽減等を図っていく ③各地域で機械士会等による機械メンテナンス講習会等を開催し、修繕技術の向上を図っていく ④オペレータ研修(本島及び離島)の開催																																																
	【目標の達成状況】 (単位：台、ha、%) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハーベスタ 稼働台数</td> <td>400</td> <td>444</td> <td>454</td> <td>450</td> <td>490</td> <td>502</td> <td>498</td> <td>473</td> <td>536</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫面積</td> <td>8,744</td> <td>10,184</td> <td>10,106</td> <td>10,185</td> <td>10,230</td> <td>11,395</td> <td>11,559</td> <td>11,448</td> <td>11,919</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫率(面積)</td> <td>67.6</td> <td>73.8</td> <td>76.9</td> <td>78.9</td> <td>79.5</td> <td>82.6</td> <td>84.5</td> <td>87.0</td> <td>88.4</td> </tr> <tr> <td>機械 収穫率(面積)</td> <td>70.2</td> <td>76.0</td> <td>78.7</td> <td>81.3</td> <td>81.8</td> <td>85.1</td> <td>86.2</td> <td>88.8</td> <td>90.1</td> </tr> </tbody> </table> ※機械収穫率(面積)は、ハーベスタ、刈取機、脱葉機等、全ての収穫機械を含む												H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	ハーベスタ 稼働台数	400	444	454	450	490	502	498	473	536	ハーベスタ 収穫面積	8,744	10,184	10,106	10,185	10,230	11,395	11,559	11,448	11,919	ハーベスタ 収穫率(面積)	67.6	73.8	76.9	78.9	79.5	82.6	84.5	87.0	88.4	機械 収穫率(面積)	70.2	76.0	78.7	81.3	81.8	85.1	86.2
	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																																																		
ハーベスタ 稼働台数	400	444	454	450	490	502	498	473	536																																																		
ハーベスタ 収穫面積	8,744	10,184	10,106	10,185	10,230	11,395	11,559	11,448	11,919																																																		
ハーベスタ 収穫率(面積)	67.6	73.8	76.9	78.9	79.5	82.6	84.5	87.0	88.4																																																		
機械 収穫率(面積)	70.2	76.0	78.7	81.3	81.8	85.1	86.2	88.8	90.1																																																		
【課題】 ① 受託組織の育成を図るためには、今後計画的なハーベスタ、株出管理機、プランタの導入が必要であるが、高性能農業機械は高額であるため、資金の調達課題であると同時に、オペレータの確保及び操作技能向上が求められている																																																											

<p>③地力の増進</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 緑肥作物等有機物の畑地への還元対策を実施 ② バガス・フィルターケーキ・糖蜜等を活用した堆肥還元を促進 ③ 堆肥施用によるさとうきび栽培モデル展示ほを設置 ④ さとうきび増産基金を活用した堆肥投入費用助成、緑肥施用費用助成、土壌改良資材投入費用の助成 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地力低下の要因として、ハーベスタや全茎無脱葉による収穫が進展する中で、有機物の畑地還元等が少ない ② 堆肥製造施設や散布機材の整備も不十分 ③ 高止まりが続く化学肥料の代替としての工場副産物の未利用有機質バガス、フィルターケーキ、糖蜜等の効率的圃場還元方法の早急な確立 	<ul style="list-style-type: none"> ①製糖企業、畜産農家との連携による有機物の畑地への還元 ②緑肥栽培による地力増進 ③さとうきび増産基金の活用による土づくりの推進
---------------	---	--

(3) 技術対策

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向
<p>①病害虫対策</p>	<p>【実施した取組】</p> <p>① さとうきび増産基金を活用し、共同防除にかかる薬剤費の助成等を実施</p> <p>② 沖縄振興特別推進交付金事業事業を活用したイネヨトウの交信かく乱法による防除の実施(伊平屋村)</p> <p>③ イネヨトウの低コスト交信かく乱技術による、さとうきびの防除技術の確立を図るためのイネヨトウ新型フェロモンディスペンサーの開発(県)</p> <p>④ 可動式誘殺灯を活用したアオドウガネの一斉防除実施(宮古地域) 可動式誘殺灯の設置 (5月～7月 :1,800基)</p> <p>⑤ 農薬使用における適正な散布・防除方法等の指導、啓発</p> <p>【目標の達成状況】</p> <p>① 合成フェロモンを活用した交信かく乱法によりイネヨトウの防除を実施した地区においては、着実な密度低減が図られている</p> <p>② 宮古地域における誘殺灯を活用した一斉防除の取り組みは、アオドウガネの発生密度の低減に繋がり、不萌芽の解消により株出面積の拡大傾向が見られる</p> <p>【課題】</p> <p>① 交信かく乱法によるイネヨトウ防除については、更なる低コスト化技術の開発</p> <p>② 交信かく乱法による防除とあわせて薬剤による防除の推進</p> <p>③ 宮古地域における誘殺灯を活用したアオドウガネの防除については、近年、捕殺数が増加傾向にあるため、継続した防除の実施</p> <p>④ アオドウガネの一斉防除と併せて、ハリガネムシ(サキシマカンシャクシコメツキ)等の総合的な防除の推進が必要</p>	<p>①経営安定対策の一環として、防除計画に基づく共同防除について、安全面はもとより、効果的な防除体系の確立を推進する</p> <p>②イネヨトウ防除に向けた取組として、沖縄振興特別推進交付金を活用した低コスト交信かく乱技術の開発を進める</p> <p>③甘味資源作物生産性向上緊急対策事業(さとうきび生産性向上緊急支援事業)や、さとうきび増産基金(セーフティネット基金)を活用した共同防除にかかる薬剤費助成や、低コスト交信かく乱技術の開発により、さとうきびの防除技術の確立を図っていく</p> <p>④宮古地域においては、誘殺灯を活用したアオドウガネの一斉防除を継続的に実施する</p>

②優良品種の 選択・普及	【実施した取組】 ① 生産性や品質の向上に向けた、早期高糖性及び耐風性等に優れた新品種の育成・普及 (農林27号、22号、25号、RK97-14等) ② 地域に適した優良品種への転換促進(優良種苗安定確保事業) ・原種ほ設置面積：春植(15.88ha)、夏植(24.65ha) ③ 甘味資源作物生産性向上緊急対策事業(さとうきび生産性向上緊急支援事業)等による種苗ほ設置支援										① 品種に対する理解を共有するため、栽培講習会を実施する ② 無病健全苗に対する講習会を実施し、種苗対策の強化に努めていく ③ 品種特性及び現地適応性の実証を行うため、現地実証展示ほの設置を推進する ④ 早期高糖性及び耐風性等に優れた新品種の育成・普及を図り、生産性や品質の向上に努める また、黒糖品質に優れた品種の選定、育成を促進する	
	【目標の達成状況】 (単位:%)											
		H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 (実績)		
	農林8号	6.7	5.7	5.2	4.5	3.8	3.4	2.8	2.5	1.9		
	農林15号	3.3	2.9	1.8	1.7	1.5	1.3	1.2	1.0	1.3		
	農林21号	9.8	8.9	7.9	6.5	5.8	5.3	4.9	4.6	3.9		
	農林27号	38.0	36.6	36.8	42.0	44.4	48.9	12.1	47.5	43.9		
	農林28号	3.4	4.9	5.0	4.8	4.4	3.9	3.6	3.5	2.9		
	農林29号	1.1	1.5	2.3	2.7	3.2	3.5	4.4	5.5	7.6		
	RK97-14	-	2.0	6.2	7.7	7.2	6.0	5.3	4.4	4.6		
【課題】 ① 品種に偏りがある地域においては、台風・干ばつ等の被害リスクを回避するため、品種構成の適正化を図る必要がある ② 含蜜糖生産地域向けの品種の育成、選定												

<p>③栽培技術の普及等</p>	<p>【実施した取組】</p> <p>① かん水施設・株出管理機等を活用した、かん水実演会・株出管理実演会等の開催</p> <p>② さとうきび栽培講習会等の開催</p> <p>③ 地域のさとうきび栽培優良事例の掘り起こし等を活用し、優良事例の紹介・普及啓発</p> <p>④ 展示ほの設置(一芽苗補植、株出管理等)による栽培技術の普及</p> <p>⑤ 梅雨明け後からのかん水を奨励するとともに、干ばつ時にかん水の呼びかけを実施</p> <p>【課題】</p> <p>① 多くの地域で補植等の未実施</p> <p>② 適期肥培管理の未実施による生育不良</p> <p>③ 基肥の施用、中耕・除草の基本的な栽培技術が遵守されていない</p>	<p>①増産に向けて、各地域で夏植・株出管理の実演会や生産者大会等を引き続き開催する</p> <p>・夏植推進大会(7月～8月)</p> <p>・株出管理推進大会(1月～2月)</p> <p>・かん水展示圃設置現地検討会等</p> <p>②さとうきび栽培優良事例を掘り起こし、地域のモデル農家として技術平準化を図る</p> <p>③新たな発信方法を検討し、優良事例の紹介・普及啓発を図る</p> <p>④堆肥施用の効果を図るため、展示ほを設置し、普及啓発する</p> <p>⑤干ばつ被害が発生する前に早期のかん水の呼びかけを実施する</p>
------------------	--	--